

Geminiは本当に遅れているのか

先に結論

結論から言うと、2026年5月17日時点のGeminiは「技術的に遅れている」というより、「市場に伝わる物語が弱い」と見るほうが正確です。Googleはすでに、Gemini CLI、Jules、Google Antigravity、Gemini Enterprise Agent Platform、Deep Research Max、Workspace FlowsやWorkspace Intelligenceまで揃えており、「実務を任せるAI」が不在なわけではありません。むしろ問題は、これらが一つの旗印の下で直感的に理解されにくいことです。 ¹

一方で、「遅れて見える」という感覚自体は、かなり現実と根差しています。JetBrainsの2026年1月調査では、Claude Codeは仕事で18%が利用、Google Antigravityは6%、Geminiチャットをコーディング用途で使う割合は8%でした。またMenlo Venturesの2025年調査モデルでは、企業向けLLM支出シェアはAnthropic 40%、OpenAI 27%、Google 21%と推計されています。Googleは伸びているものの、少なくとも開発者の熱量と企業支出の第一想起では、AnthropicやOpenAIに先行されている構図です。 ²

したがって、投稿文の核心はかなり鋭いです。特に「Googleの勝ち筋は、選ばれるAIではなく、そこにあるAIではないか」という視点は、Google自身の展開状況とよく整合します。実際、AI Overviewsは月間20億超の利用者に達し、Gmailは30億人が使い、Workspaceでは月間20億回超のAIアシストが発生しています。GoogleのAIは、単独アプリ競争だけではなく、検索、メール、ドキュメント、ブラウザの導線そのものへ埋め込まれ始めています。 ³

投稿文が的確に捉えていること

まず、競争の主戦場が「画像生成がすごいから」「どのAIに仕事を任せられるか」へ移っている、という見立ては正しいです。Menlo Venturesは、2025年の部門別AI支出の中でコーディングが40億ドル、部門別AI支出の55%を占める最大カテゴリだったと整理しており、AIによる実務代替のなかでも開発が最も強い収益化ユースケースになっていると述べています。JetBrainsも、2026年1月時点でプロの開発者の90%が仕事で何らかのAIツールを使い、74%がチャットボットではない専用の開発AIツールを採用していると報告しています。 ⁴

次に、AnthropicとOpenAIが「一言で分かる」製品の見せ方に成功している、という指摘も当たっています。AnthropicはClaude Codeを「developers向けのAI-powered coding assistant」と明示し、ターミナル、IDE、Slack、Webでコードベースに直接働きかける製品として前面に出しています。OpenAIもCodexを「ChatGPTに支えられたcoding agent」と定義し、ChatGPTの料金ページでは無料枠にすら「limited Codex access」を入れています。ユーザーの頭に残るラベルが明確です。 ⁵

さらに両社は、単なるモデル売りではなく、導入ストーリーまで含めて一体化しています。OpenAIはFrontier、ChatGPT Enterprise、Codexなどを含む「Enterprise AIの次の段階」を明示し、Anthropicは中小企業向けにコネクタと業務フローを束ねた「Claude for Small Business」を打ち出しています。つまり、競争は「最強モデルはどれか」だけではなく、「どう現場に入り込むか」の競争でもあります。投稿文が強調する「実務に入るAI」という論点は、この点で妥当です。 ⁶

投稿文が見落としているGoogleの現在地

ただし、投稿文の「Geminiには何があるのか？」という問いは、いまのGoogleの実態を少し古く見積もっています。開発者向けだけでも、GoogleはGemini CLIを「オープンソースのAIエージェント」としてターミナルに入れ、JulesをGitHub連携の自律型コーディングエージェントとして展開し、Gemini 3と同時にGoogle Antigravityを「agent-first development platform」として公開しています。さらにGoogle AI Proの説明では、AI Studio、Antigravity、Jules、Gemini CLI、Gemini Code Assist拡張の上限強化まで一つのサブスクリプションに束ねています。つまり「ない」のではなく、「何本もある」のです。⁷

しかもGoogleの実務系AIは、コーディングだけに留まりません。Workspaceでは、すべての商用プランにAIを統合し、月間20億回超のAIアシストが発生しています。Workspace FlowsはGemとDrive内ファイルを使って複数ステップの業務を自動化し、Workspace IntelligenceはDriveのAI OverviewsやAsk Geminiを一般提供済みです。Cloud側ではGemini Enterprise appが「組織の全従業員に向けたAIのフロントドア」と位置付けられ、Gemini Enterprise Agent PlatformはVertex AIを進化させた、構築・運用・統制まで含む包括的平台として打ち出されています。さらにDeep Research Maxは、Webと独自データをまたいだ長時間リサーチ業務を処理する研究エージェントへ進化しています。⁸

モデル面でも、Googleを単純に「技術的に負けている」とは言いにくいですが、Google DeepMindのGemini 3.1 Proページでは、Terminal-Bench 2.0で68.5、SWE-Bench Verifiedで80.6など、複数の高度な推論・コーディング指標で強い値を示しています。第三者評価でもArtificial Analysisの総合リーダーボードでは、GPT-5.5群の次にClaude Opus 4.7と並んでGemini 3.1 Pro Previewが上位グループに入っています。ベンチマークだけで市場が決まるわけではありませんが、「モデル性能が根本的に足りないから遅れている」という説明は弱いです。⁹

画像についても、投稿文の評価は半分当たりで半分アップデートが必要です。Googleは2025年にNano BananaをGeminiアプリへ統合し、続けてNano Banana Pro、2026年にはNano Banana 2まで投入して、画像生成・編集をGemini、Search、Adsなどへ広げてきました。ただし画像レース自体は流動的で、2026年5月12日時点のLMArenaの画像編集ランキングではOpenAI系モデルがトップを占めています。つまり、Nano BananaはGoogleの存在感を取り戻した重要な一撃でしたが、それだけで全体競争を決める段階ではもうありません。¹⁰

それでもGeminiが遅れて見える理由

最大の理由は、製品の厚みではなく、名前と導線の散らばりです。Googleは「Gemini」をモデル名にもアプリ名にも使いながら、開発者向けの有力製品をAntigravity、Jules、Code Assist、CLI、Enterprise Agent Platformと別ブランドで出しています。Anthropicの「Claude Code」やOpenAIの「Codex」のように、製品名と用途が一直線で結びついていないため、ユーザーの記憶に残る“決め台詞”が弱くなりやすい構造です。これは製品不足ではなく、パッケージング不足です。¹¹

第二に、Googleの最も攻めた機能は、まだ限定公開や上位プラン偏重が目立ちます。Google I/O 2025時点でGeminiのAgent ModeはGoogle AI Ultra加入者への早期アクセスとして案内され、現在のGoogle AI Ultra案内でもGemini Agentは米国・英語限定です。Chrome auto browseも米国のAI Pro/Ultra向けですし、GmailのAI Overviewも一部は米国限定です。これでは「本気の機能はあるが、誰でもどこでも使える状態ではない」と受け止められやすく、結果として“遅さ”の印象が残ります。¹²

第三に、実際の開発者マインドシェアでも差があります。JetBrainsの大規模調査では、2026年1月時点でClaude Codeは仕事で18%利用、Codexは3%利用、Google Antigravityは6%利用でした。Geminiチャットは開発用途で8%使われていますが、これは「Geminiがない」のではなく、「Geminiブランドの開発向け主役がまだ定まっていない」ことの表れとも読めます。この調査はあくまで一社の国際調査であり、市場全体の確定値ではありませんが、体感的なギャップを説明する材料としては十分です。¹³

第四に、企業支出の面でもGoogleは“追う側”です。Menlo Venturesは、約500人の米国企業意思決定者調査と独自市場モデルをもとに、2025年の企業向けLLM支出シェアをAnthropic 40%、OpenAI 27%、Google 21%と推計しています。これは公的統計ではありませんが、少なくとも「Googleは伸びているが、まだ首位ではない」という中間評価を示します。投稿文の「遅れて見える」は、この意味では事実に近いのです。 14

Googleの勝ち筋と制約

それでもGoogleの勝ち筋は、投稿文が言う通り非常に強いです。AI Overviewsは月間20億超のユーザーを持ち、Gmailは30億人が使い、Workspaceでは月間20億回超のAIアシストが起きています。ChromeではGemini 3ベースのサイドパネル、Connected Apps、auto browseが入り、APACでも日本を含む複数市場へ展開が始まりました。Gemini Liveは45以上の言語、150以上の国のモバイルユーザーに提供されています。これは「AIアプリを開いてもらう競争」よりも、「毎日の仕事や生活のUIにAIが既にいる状態」を作る競争です。 15

財務構造も、投稿文の大筋を支持します。Alphabetの2025年売上は4,028億ドルで、そのうちGoogle Search & otherが2,245億ドル、Google Services全体が3,427億ドル、Google Cloudが587億ドルでした。2026年第1四半期にはGoogle Cloud売上が200億ドルへ達し、63%成長しています。OpenAIは自らを「AI research and deployment company」、Anthropicは「AI safety and research company」と説明していますが、AlphabetはAI以外にも検索、YouTube、サブスク、Workspace、Cloudという巨大収益源を持っています。つまりGoogleは、AIを単体で黒字化しなければ成立しない会社ではなく、既存事業を強くする汎用部品としてAIを使える会社です。 16

しかもGoogleは、アプリ競争に負けてもインフラで勝てる余地があります。Alphabetの10-Kでは、Google Cloudの収益源にenterprise AI infrastructure、Vertex AI、Gemini Enterpriseが明記されています。さらにReutersは、AnthropicがGoogle Cloudとチップに関する大きな計算契約を結んだと報じました。要するにGoogleは、Geminiを売るだけでなく、「他社のAI競争そのもの」にもクラウドとTPUで参加できる立場にあります。ここはOpenAIやAnthropicにはない強みです。 17

ただし、投稿文の「検索広告を壊したくないからGoogleは慎重だ」という仮説は、半分は妥当でも、半分は公式データとズレます。Alphabetは2025年Q1時点でAI Overviewsの収益化が「おおむね同率」で進んでいると説明し、2025年Q4の決算ではAI OverviewsやAI Modeが検索全体の利用や商業クエリを増やし、Geminiベースの改善が広告のマッチングにも効いていると述べました。さらに同Q4の質疑では、Geminiアプリ等による検索のカニバリゼーションの証拠は見えていないと明言しています。したがって、現時点の実証データは「AIがSearchを壊している」より、「AIがSearchを拡張している」に近いです。 18

ここで重要なのは、Googleが「本気を出していない」のではなく、「本気を複数の面で分散して出している」ことです。上位プラン限定の先行機能、検索内のAI、Chrome内のエージェント、Workspaceの業務自動化、CloudのAgent Platform、開発者向けのAntigravityとJulesが同時並行で走っています。外から見ると統一感が薄く見えますが、戦略としては単独アプリ特攻ではなく、配布チャンネル、収益化、ガバナンス、インフラをまとめて押さえる動きです。これは遅さというより、大企業型の多正面展開です。 19

総合評価

この投稿文を事実ベースで採点すると、**当たっている部分はかなり多いが、結論を支える前提の一部が古い**、という評価になります。正しいのは、「Googleは単独アプリ競争だけで見れば存在感がぼやけやすい」「勝ち筋は埋め込みと導線支配にある」「ユーザーの頭に残る一言が弱い」という点です。弱いのは、「Geminiには画像以外の実務武器がほぼない」という前提です。実際にはGoogleは、開発、調査、業務自動化、企業運用の各レイヤーでかなり多くの武器をすでに投入しています。 1

言い換えるなら、開発者の熱狂と単独プロダクトの語りではAnthropicやOpenAIが強く、配布チャンネル・組み込み・収益化の柔軟性ではGoogleが強い、ということです。もし問いが「いま最もシャープに見える開発者向けAIは何か」なら、Claude CodeやCodexが優勢に見えるのは自然です。ですが、「今後、誰が最も自然にAIを日常の既定インフラへしていけるか」という問いなら、Search、Gmail、Workspace、Chrome、Cloudを握るGoogleはむしろ最強候補です。 ²⁰

したがって最終的な答えはこうです。Geminiは“遅れている”のではなく、“強いのに伝わっていない”面が大きい。ただし、それは軽い問題ではありません。生成AI市場では、機能の有無より、用途が一瞬で伝わることで採用速度を左右するからです。Googleが次に勝負すべきは、モデル性能そのものよりも、「Geminiならこれ」「GoogleのAIはここが標準」という物語の統一です。そこが定まれば、Geminiは追う側から“既にそこにある側”へ一気に見え方を変える可能性があります。 ²¹

🔗navlist🔗関連する最近の報道🔗turn39news19,turn38news29,turn38news31🔗

-
- 1 ⁷ ¹¹ Google announces Gemini CLI: your open-source AI agent
<https://blog.google/innovation-and-ai/technology/developers-tools/introducing-gemini-cli-open-source-ai-agent/>
 - 2 ¹³ Which AI Coding Tools Do Developers Actually Use at Work? | The Research Blog
<https://blog.jetbrains.com/research/2026/04/which-ai-coding-tools-do-developers-actually-use-at-work/>
 - 3 ¹⁵ Alphabet Investor Relations - 2025 Q2 Earnings Call
<https://abc.xyz/investor/events/event-details/2025/2025-Q2-Earnings-Call/>
 - 4 ¹⁴ 2025: The State of Generative AI in the Enterprise | Menlo Ventures
<https://menlovc.com/perspective/2025-the-state-of-generative-ai-in-the-enterprise/>
 - 5 ²⁰ Claude Code by Anthropic | AI Coding Agent, Terminal, IDE
<https://www.anthropic.com/claude-code>
 - 6 The next phase of enterprise AI | OpenAI
<https://openai.com/index/next-phase-of-enterprise-ai/>
 - 8 Announcing the latest AI capabilities in Google Workspace with Gemini | Google Workspace ブログ
<https://workspace.google.com/blog/ja/product-announcements/new-ai-drives-business-results>
 - 9 Gemini 3.1 Pro — Google DeepMind
<https://deepmind.google/models/gemini/pro/>
 - 10 Nano Banana: Image editing in Google Gemini gets a major upgrade
<https://blog.google/products-and-platforms/products/gemini/updated-image-editing-model/>
 - 12 Gemini App: 7 updates from Google I/O 2025
<https://blog.google/products-and-platforms/products/gemini/gemini-app-updates-io-2025/>
 - 16 ¹⁷ goog-20251231
<https://www.sec.gov/Archives/edgar/data/1652044/000165204426000018/goog-20251231.htm>
 - 18 Alphabet Investor Relations - 2025 Q1 Earnings Call
<https://abc.xyz/investor/events/event-details/2025/2025-Q1-Earnings-Call/>
 - 19 Google AI Plans with Cloud Storage - Google One
<https://one.google.com/about/google-ai-plans/>
 - 21 LLM Leaderboard - Comparison of over 100 AI models from OpenAI, Google, DeepSeek & others
<https://artificialanalysis.ai/leaderboards/models>